

「第12回三学会合同抗菌薬感受性サーベイランス —複雑性尿路感染症2020年—」 について

加古川中央市民病院泌尿器科では、現在、札幌医科大学と共に複雑性尿路感染症の診断を受けられた方に対し研究を実施しております。内容については下記の通りになっております。

尚、この研究についてご質問がございましたら、最後に記しております【問い合わせ窓口】まで連絡ください。

【研究概要及び利用目的】

感染症治療は、一般的にはその感染症の原因となっている菌（原因菌）を殺菌したり、増殖を抑制する「抗菌薬」を使用します。しかし、昨今では、抗菌薬が効きにくくなった菌（耐性菌といいます）のため、治療が難しくなることもあります。この耐性菌の問題は深刻であるため、原因菌の抗菌薬に対する感受性（抗菌薬がその菌に効果を示すかどうか）を定期的に測定し、色々な感染症における抗菌薬の使い方を考えることが重要になります。

原因菌の抗菌薬に対する感受性の変化を把握し、国内の感染症治療ガイドなどで推奨抗菌薬の見直しの貴重なデータとなります。

【研究期間】

研究期間：病院長承認日～2021年9月30日

【取り扱うデータおよび試料・情報の項目】

複雑性尿路感染症の診断を受けた方の

1. 治療を開始する前に尿を採取した残余尿を専用の培地につけて札幌医科大学へ提出。
2. 電子カルテおよび問診により、年齢、性別、入院・外来の区分、感染症診断名（複雑性膀胱炎、複雑性腎盂腎炎）、尿路の基礎疾患、尿路以外の基礎疾患、体内留置カテーテル、自覚症状の有無、膿尿の有無等について情報収集させていただきます

【個人情報保護の方法】

プライバシーの保護に配慮するため、患者さんの試料や情報は直ちに識別することができないよう、個人情報を削除し対応表を作成して管理します。収集された情報や記録は、インターネットに接続していない外部記憶装置に記録し、加古川中央市民病院 医局の鍵のかかる保管庫に保管します。

【データおよび試料提供による利益・不利益】

利益：研究にデータをご提供いただいた患者さん個人には特に利益と考えられるようなことはございませんが、本研究結果が今後の治療の向上に有用となる可能性があります。

不利益：カルテからのデータ収集のため特にございませぬ。患者さんに新たに血液などの検体の採取を行うことはありませぬ。

[登録終了後のデータおよび試薬の取り扱いについて]

この研究以外では使用はいたしません。得られた資料は加古川中央市民病院 医局の鍵のかかる保管庫及び、三学会合同感受性サーベイランス学会で研究終了後5年間保存いたします。データを廃棄する場合は、紙媒体はシュレッダーにかけ廃棄、電子データは復元不可能な形で消去いたします。

[研究成果の公表について]

この研究の成果は、関連学会への発表等で公に発表します。その場合も あなたの個人情報 は秘密に厳重に守られ第三者にわからないようにしています。

[研究へのデータ使用の取りやめについて]

試料・情報の研究利用を拒否する自由、同意を撤回する自由を保障しています。拒否および同意撤回を希望の方は問い合わせ窓口までご連絡ください。拒否および同意撤回による不利益は一切ございませぬ。

[問い合わせ窓口]

この研究の問い合わせだけでなく、患者さんのデータが本研究に用いられているかどうかお知りになりたい場合や、患者さんのデータの使用を望まれない場合など、この研究プロジェクトに関することは、どうぞ下記の窓口までお問い合わせください。

加古川中央市民病院 泌尿器科
研究責任者名 岡 泰彦
連絡先：079-451-5500